

声明：

私は IASSW 理事会選挙に立候補します。なぜなら、社会福祉系の教育機関は、人権の擁護、民主主義の深化、そして拡大する格差、強制移住、気候変動、福祉制度の弱体化といった世界的危機に創造的に対応するうえで、極めて重要な役割を担っていると信じているからです。IASSW は、地域を超えてこれらの取り組みをつなぎ合わせ、小国や周縁地域にある教育機関の声を、より広く届けることができる独自の立場にあります。

もし選出された場合、私は三つの相互に関連する優先課題を強化するために尽力します。第一に、グローバル・サウス、小規模国家、周縁化されたコミュニティが生み出す知を重視し、サービス利用者の生活体験を中心に据えた参加型かつ批判的な教育法を促進することで、社会福祉教育課程の脱植民地化と民主化を支援します。

第二に、大学、NGO、そして実践現場との連携を強化し、学習、研究、政策参画が、社会的不正義の影響を最も強く受ける人々と共に作り出されるよう促進します。

第三に、学生と教育者のウェルビーイングを守ることを掲げます。社会福祉専門職や管理職との協働において、バーンアウト、倫理的苦悩、そして不安定な職務環境は繰り返し浮上する課題です。私は、特に資源が限られた環境において、スーパービジョン、メンタリング、組織的ケアに関する優良実践を共有する IASSW の取り組みを支援します。

私は、教育、カリキュラム開発、国際協働、そして障害・健康・福祉分野における実践研究の経験をこの役割に生かしたいと考えています。世界のあらゆる地域の同僚と協働し、IASSW が社会福祉教育において、今後も積極的で、包摂的で、そして批判的な声を発信し続けることに貢献したいと考えています。